

奏

軍務局

大正九年十月三日

獨逸皇族ハ井リツヒ親王様伴員補助官

海軍大尉上村 義三

森山海軍省副官殿

局員

獨逸皇族様伴記事提出ノ件

獨逸皇族様伴始末書既ニ八代様伴員ヨリ提出済ニ付重ナル行事及ヒ所感ヲ記シ今様伴記事トシテ提出ス

附録一 獨逸皇族ハ井リツヒ親王殿下勲章奉呈ノ條

於ケル言上振(式部職調製)

公二 獨逸皇族ハ井リツヒ親王殿下御接待次第書

(花崎 附)

海軍

0651

附録 三. 大正元年九月十六日宮中御陪食人名

全 四. 外國皇族御待遇次第全追加共

全 五. 大喪儀参列各國御名代特派使節及來航艦隊

第一覽表

全 六. 大喪儀参列各國軍艦豫定錨地略圖

全 七. *Imperial Funeral Catalogue.*

右添付ス

(終)

(花繪納)

0652

独逸皇族ハインリッヒ親王殿下接待記事

海

軍

(花時模)

0653

## 殿下、御平生其他

殿下ハフレデリック第三世ノ第二子ニシテ現皇帝唯一ノ弟  
 君ニ當ラセラルヘ千八百六十二年八月十四日ポツダム皇城  
 ・於テ御降誕御齡正ニ五十歳ニ為被在ル

殿下、御幼少時代ハ御兄君「カイセル」陛下ト全ク御性質ヲ  
 異ニセラル「カイセル」陛下、剛勇活潑ナルニ反シ殿下ハ優  
 雅温順ニ在ラセラル殊ニ御母君、愛ヲ受ケサセラルタリ  
 學齡ニ達セラル、ヤ先帝陛下、深遠ナル御配慮ニ基キ全  
 ク普通學童ト企撮、御資格ヲ以テ小學校ヨリ順次御階程  
 ヲ進マセラル嘗テ「カイセル」陛下ガ一學生トシテ御通學時  
 代某數學教師陛下ニ翌日施行、試験問題ヲ申告シタルニ

陛下、翌日御登校始業時間前、本日、試験問題ハ下、如  
 レト黑板ニ記サレ全級生徒ニ知ラシメラレ全級満点ヲ得  
 タリト御逸事ニ照レテモ如何ニ其教育法ガ平民的公平ナ  
 リレカラ知ルヲ得ヘシ其後殿下ハ籍ヲ海軍ニ置カル(クロ  
 ジック)中將ト全期生ニシテ氏ニ對シテ、御談話ニハduヲ用  
 ヒラル)海軍ニ於ケル御職務モ亦全然普通士官ト同様ナル  
 待遇ヲ以テ漸時御昇進千八百九十九年御齡四十八歳ヲ以  
 テ現任元帥ニ御昇進アラセラル千八百八十八年ハツセル  
 皇國ヨリイレネ内親王ヲ迎ヘテ皇妃トセラルニ王子ヲ揚  
 ケラル本年五月御東歸邦霞ヶ関離宮ニ國廣トシテ一日御  
 滞在アリレ獨逸皇族ワルゲスマール親王ハ實ニ殿下、御長

(花崎)

0655

子ナリ

殿下ハ英皇室ノ血ヲ受ケサセラル、ミナラズ王妃モ亦英國ノ血ヲ受ケ居ラル、ヲ以テ御平生御生活共ニ英國風ヲ好マセラレ今回ノ御滞京中モ御自身余ハ獨逸皇族ナルモ生活ハ全ク英國人公様ナリト云ハレタルヲアリ而シテ英佛兩語ハ白國々語全様ニ使用セラル

普國皇族ハ<sup>全</sup>王室ノ根本的基礎トモ稱スベキ「皇族ハ普國ノ皇族ニテラズシテ人類ノ皇族タルノ資格ナカルベカラズナル教訓ヲ以テ教育サレ又其実行ニ勉ムルモノニシテ何事ニ依ラズ常ニ其努力ノ程度普通民ノ上ニアリト之レ獨逸帝國ノ國体上一層然ル所以ナリト聞及ヒ居タルモ今

(花崎城)

回親レリ殿下ノ左右ニ持スルニ其言語態度、恩威並ヒ行  
 ハル・ハ外臣スラモ信ニ殿下ニ敬慕スルノ念ヲ起サシム  
 ルモノアリ殿下ハ毎日必ズ午前七時ニ御離床正子十二時  
 ニ御就寢御朝食八時三十分御晝食午後一時御晚餐午後八  
 時ニシテ午後五時前後ニ茶ヲ取ラセラル・モ英國風ノ夫  
 レトハ異リ獨リ御居間ニテ石サセラル殿下ノ御朝起ニ就  
 テハ御自身モ誇リトセラル・所ナルモ總テノ御生活狀態ヲ  
 歐洲大陸高貴社會ノ慣習ト全然異ニセラル・ハ殿下ノ御  
 精心、一端ヲ科察スルニ足ルモノト思考ス又殿下ノ御旅  
 行、外離宮内ニ於テモ海軍制服ノ外一切畧服ヲ石サセラ  
 レズ殿下ハ常時政事外交ノ事ニ関シテハ一切閑興セラレズ

(花崎納)

0657

専心獨國海軍ニ盡碎サレ其常住地ヲキール軍港ニ置カセ  
 ラル、モ亦吾人ノ想像意外トス殿下ハ特ニ科學工業ニ趣  
 味ヲ有セラレ自働車、世ニ出ワルヤ之ガ研究ト發達ニ多  
 大ノ努力ヲ拂ハレ又飛行機、發明セラル、ヤ自カラ進シ  
 デ航空術ヲ練習シ獨國海軍軍人中最初ニ航空士免狀ヲ得  
 タルハ實ニ殿下其人ナリトス現今ニ於テモ全機、御研究  
 ヲ急ラズト云フ殿下、海軍方面ニ於ケル御事蹟ハ牧肇  
 ニ倣アラズト虽モ其一二ヲ舉クレバ千七百七十九年(明治  
 十二年)獨國砲艦「アーダベルト」ガ始メテ絶東ニ航シタル際ニ  
 ハ海軍少尉トシテ全艦ニ乗組ミ御來邦ウルエルム一世陛  
 下ガ我が皇室ニ致セル使命ヲ全フセラレタル如キハ當時

(花崎稿)

0658



獨國海軍ノ程度ヨリスレバ皇族ノ御身トシテハ冒險的  
 航海ニ御從事アリレト云フモ可ナラン又千八百九十七年  
 (明治三十年)獨國が始メテ終東ニ其勢力ヲ延ヘントスルヤ  
 純東艦隊司令長官トシテ才腕ヲ振ハレ膠州灣租借ニ際シ  
 テ其艦隊ノ勢力ヲ遺憾ナク發揮セラル其後ハ獨國ノ艦  
 隊法制定實施ニ當リテハ本法ニ依ル大海艦隊ノ司令長官  
 トシテ數年間全職ニ留リ所謂大海艦隊ノ基礎ヲ定メラレ  
 タル等ハ殿下ノ皇族以外海軍軍人トシテ、偉大ナル御功  
 業ト申スヲ得ヘシ又殿下御自身モ皇族以外自カラ世界ノ  
 海軍將官タルヲ自任遊ハサル、標科案ス依テ今回、御東  
 邦中迄面識アル我海軍ノ責任者ト親シク御會談アルカ又

(花崎 勘)

0659

ハ呉工廠ノ御視察ニテモアリタラシニハ「カイゼン」陛下ニ何  
 ヲリノ御土産トナリレナラン殿下モ内心此御希望アリレヤ  
 ニ科案レタレモ下記スルガ如キ御謹慎ノ御態度ヲ示サレ  
 ツ・アリレヲ以テ自カウ好ンテ此御希望ヲ発表セサラレ  
 サリシ様御推察申ス殿下ハ再来ヲ切望スル旨再三述ヘラ  
 レシガ故或ハ此事アルヤモ計ラレス依テ小官ハ次期ニ於  
 テハ上記ノ御土産ヲ殿下ニ提供セラレン事ヲ當局ニ切望ス  
 殿下御滞京中ハ非常ナル御謹慎ニシテ宮内省側ヨリノ切  
 ナル御進メニ依リ九月十四日箱根ニ御一泊アリレ外ニハ  
 公式ノ御往訪ノ外一切御私用ヲ以テ御外出ナク十三日ノ  
 如キハ終日一室ニ閉居セラレ又食卓ニ於テハ獨坐入ノ慣

(花崎)

0660

例トシテ屢々相互乾盃ヲ行フモ今回ハ御謹慎中ナルノ故  
 ヲ以テ只ダ一個クロツレック中将御石ノ日丁度其誕生日ニ相  
 當セルニ依リ殊ニ其旨ヲ一般ニ断ハレ然ル後氏ノ健康ヲ  
 析ル為メニ乾盃サレタルノミナリキ

乃木大将夫妻自刃ニ就テ殿下ノ感想ハ能ク其真意ヲ了解  
 サレタルハ疑ヲ入レス即ケ九月十四日午前十時頃宮内大  
 臣ヨリ協伴員一全ハ右ニ関スル誤解ナキ様自刃ハ即ケ  
 殉死ノ意ナル旨通知アリタリ然ルニ殿下ニハ其前既ニ従僕  
 ヲリ此事イリレヲ聞レ石サレ直チニ蜂須賀式部官ヲ石サ  
 レ其信否ヲ殿下問ノ上大畧危ノ如キ意味ヲ以テ  
 陛下ニ御使ヲ命セラル

乃木大将夫事殉死ノ悲報ニ接レ

陛下ガ貴重ナル功臣烈婦ヲ失ハレタルハ哀悼ノ至

ニ不堪先帝陛下ガ斯ノ如キ功臣ヲ養成セラレタマハ

聖代ヲ今ヤ陛下ニリ承ケサセラレ其帝都ニ於テヤ此

忠勇絶倫ナル壮率ヲ親シク目撃シ得タルハ余ノ最

モ光榮トスル所ナリ

随員等ハ日本ノ顯官ノ出ヲ三級ニ區別シ其出ヲ問フヲ常

トセリ曰ク大名曰ク公卿曰ク武士依テ一夕御附武官チス

カ大尉ト次ノ如キ問答ヲ試ミタリ

小官ヲ輩下ニ聯邦中何國民ナルヤ

チ「舊國民ナルモ祖先ハポーレツナリ」

小フ帝國議會ニ於テ「ポールレン」黨ハ常ニ政府ニ反對ス  
 ル様ナルガ貴下ニ如何ニ思ハル、ヤ、  
 カ「全黨ニ「ポールレン」ナル名称ヲ附シタルガ故ニ社會  
 ニ誤解ヲ起スモノニシテ單ニ一派ノ政黨タルニ  
 過キズ決シテ「ポールレン」人が團結シ居ル意味、  
 モノニ「アラズ」シテ或ル主義ヲ以テ帝國ニ忠ヲ  
 盡シ居ルモノナリ余ノ如キハ既ニ數代普國軍人  
 トシテ忠事スルモノナリ」  
 小「普國海軍ハ殆ンド普國海軍ノ如キ様思ハル、ガ  
 高級武官ノ採用ニ普國民ニ特点ヲ與フル如キヲ  
 アリヤ」

(花崎精)

0663

チ、他國民ノ海軍武官志望者が普國民ニ比シテ僅少ナルノミニテ普國民ニ對スル特点ハナシ

小官ハ獨玉海軍ハ國体上普闊ナル者盛ニ行ハレ居ルモノト聞知セルモ普國民ト云ハポーレン出ノ武官が御附武官タルト自カラ普國民ヲ以テ誇トナレ居ル彼レノ口ヨリ特<sup>典</sup>点ナレト云ヒタルハ尚ホ研究ヲ要スル事項ト思考ス

獨艦隊、横濱入港及ヒ獨逸皇族、御入京並御滯京

九月十日午前五時三十五分新橋發獨國大使館附海軍武官  
フイシセル少佐ト同行横濱ニ赴リ

英國大使館附武官ブラオリグ大佐飯田中佐ト同車ス  
此一行、横濱、英國皇族出迎、為ノ横濱ヨリ驅逐  
艦響乗艦ノ豫定ナル旨ヲフヒシセル少佐聞知スルヤ  
稍ヤ不快ノ語ヲ発スルヲ以テ尤、通り傳ヘ

獨艦隊ハ入港豫定時刻本日午前九時ナルモ英艦隊  
ハ午後ナルガ故ニ其出迎ヘスベキ地點ノ距離ニ差ア

如記友、横  
屋外稍  
離シ、沖ニテ  
レ、シ、ホ、ト  
、、ノ、係、定  
ヲ、希、望、シ、来  
、、低、リ、富  
、、船、載、水、雷

(花崎 稿)

0665

船ヲ其用供  
 シ定ニ南宮  
 士ニ其ヲ待合  
 イムヲミシテ其  
 セル位ニ大満  
 二ツリハム  
 ルモノナリ  
 其後ヤナ  
 而シテ此  
 ヲ移リ亦時  
 年ニ之ガ  
 諸君ニ其解  
 ナリト辭解  
 セリ

ルノミナラス英艦隊ハ皇族御石艦ヲ好フエンストハ  
 行動ヲ異ニシテ来航本日入港前某地点ニ於テ某時  
 間ヲ期シテ會合供奉ニ入ルノ豫定ニシテ其打合セ  
 頗ル錯雜セル故英大使館附武官ハ前記某地点ニ  
 出張スルノ必要ヲ生シ急ニ響ニ便乗セシムル事ト  
 ナリシニ依ルモノニシテ我が海軍省ガ英獨兩武官ニ  
 對シ故意ニ厚薄アルガ如キ答ナシト説明シ置ケリ  
 「シャルホルスト」艦中余ニ驅逐艦響ノ獨艦隊附近ニ  
 現レタル時ハ出迎教導ノモノナルベシト思ヒタレドモ  
 航過シ去レリト云ヒシニ依リ小官ハ單ニ余等一行ノ他  
 ニハ出迎ハナカリシ答ト答ヘ置キタルニ全件ニ関シ

海軍

(花崎納)

0666



富士船載水  
雷艇ノ天チ  
シモカニ船  
一都令ミラ大  
形ノ船社船  
ヲ供セテト  
レ

海軍

テハ其後何等質問ヲ發セザリシ

午前六時三十分郵船會社汽艇深川丸（ハ〇噸）ニ乗艇陸  
發港外ニ向フ此時旗艦盤手ニ「シャルンホルツ」宛フヒシエル  
少佐出迎、為ノ郵船會社汽艇ニテ港外ニ出ツル旨無線  
電信ヲ依頼ス途中富士ニ寄り獨艦錨地ノコト並ニ御石  
艇ノ事ニ関シ高島艦長ノ命ヲ受リ

一錨地ノコト 御石艇「シャルンホルツ」ハ最初ヨリ港外豫  
定錨地ニ投錨スルヲ將又港内ニ入ルヲ第二ノ場合ニ  
ハ單錨泊錨留何レニテモ獨艦ノ隨意タルベキコト  
港内ニ入リタルトキハ殿下御退艦豫定錨地ニ錨地  
ヲ變更サレタキコト

（花崎納）

0667

附記 接待員ノ意見トシテハ成ルベク内港碇泊シ

希望シ居リタリ

供奉艦ヲライフチヒハ港外豫定錨地ニ最初ヨリ投錨サ  
レタキヲ

ニ 御石艇ニハ彼我何レノモノヲ使用サル、ヤ我が水雷艇  
ヲ使用セラル、ナレバ殿下ノ旗章ヲ我が艇首杆ニ  
掲揚スルヲニ聞シ研究シ置クヲ

午前八時十五分「シャルンホルスト」ニフヒシエル少佐並小官  
乗艦フヒシエル少佐ハ殿下御接待ニ関スルコトニ付専ラ  
打合ヲナシ小官ハ前艦橋ニ導カレ兩艦ノ錨地其他ニ  
就テ長官艦長ト相談ス「シャルンホルスト」ハ港内ニ入り

(花崎 綱)

0668

單錨泊ヲナレフライ。フナヒハ港外豫定錨地ニ碇泊ノユトニ  
 決定シ小官携帶セル海軍省製豫定錨地略圖ニ依リテ  
 旗艦<sup>リ</sup>「ライガチビ」ノ錨地ヲ信号ニテ指定シ礼砲其他ノ儀礼  
 滞リナク済ミ午前八時五十分「リヤルンホルスト」ハ無事  
 港内ニ碇泊ス次テ「ライガチビ」投錨ス  
 接待員獨國大使在泊各國司令長官司令官參謀長艦長  
 乗艦賜謁次テ御上陸端舟順序  
 富士艦長 御石艦 接待員 第三艦隊長 全上  
 御石艦ニハ「リヤルンホルスト」汽艇ヲ用ヒラル所ニ  
 依リ獨國皇族ハ常ニ自國ノ端舟ヲ用ヒラル  
 ヲ例トスト云フ

(花崎納)

御荷物ニ関レテハ横濱港務部ニ照會レテ港務部、旗章ヲ掲ゲタル汽艇ハ碇泊スルヤ直ケニ御石艦大艇ニ横附、ヲヲ約レ其旨ヲ前以テ御石艦ニ通シ置キ從僕モ全艇ニ乗艇セシメタルヲ以テ意外ニ短時間且ツ好都合ニ陸揚シテ全部臨時御石列車ニ搭載スルヲ得タリ又某二艦隊ヨリ兵員三十名ヲ陸岸ニ派遣ス

御荷物ハ頗ル多大ナルモノニシテ前例ニ慣レタル宮内官ノ常ニ苦慮スル所ナル由ニレテ御荷物ニ関レ前以テ相互充分ナル打合ヒヲ成レ置クノハ必要ナル事項ト思考ス

中上陸場、棧橋ハ單ニ浮棧橋ヲ用意シタルノミニ

(花崎稿)

0670

レテ「ノシロフ」及ヒ「ボートフック」ヲ使用シ得ベキ鑑  
 、設備ナク稍ヤ不便ヲ感レタリシモ端舟運用者ノ  
 技術ト天候ノ宜敷ヲ得タル為メ何等ノ不都合ヲ生  
 セサリレモ今後設備ノ責ニ任スルモノハ注意ヲ要ス  
 御上陸後豫定ノ進謁者及ヒ御出迎ノ獨國大使館員ノ  
 ニ賜謁ノ後第二艦隊ヨリ派遣ノ儀仗隊ヲ親閲サル所ル  
 精密ナリ儀仗隊ハ重複縦隊ナリレヲ以テ大隊長ハ其  
 固有位置(隊ノ中央)ニアリシモ此場合殿下ニ近キ一翼ニ  
 アリテ親閲ノ際御先導スルノ今隊点檢ノ時ノ今隊長ノ  
 如クナサハ一層可ナルヤニ思考セリ

奉送ノ際ノ隊形豫定シアラザリシニ固スルヤ其爲困

(花崎 納)

0671

ヲ知ルヲ得サリシモ右翼半部隊が極ノテ不規則ナル運動ヲナシタルハ遺憾ナリキ又將校ノ劍ノ敬礼法が一致セズ區々ナリシモ奇異ニ目立ケタリ細事ト虽モ外國代表者ノ上陸後第一ニ觀覽スル軍隊ノ儀礼ナルが故ニ一考ヲ要スル事項ト思考ス

新橋御着車ノ際ニ於ケル儀礼ハ陛下ハ御出迎ノ諸員ヲ御照以て殿下ニハ隨員ヲ陛下ニ御照以て陛下ト相ヒ列ヒテ御徒步陸軍儀仗隊ヲ点檢サル殿下先ツ停車

場御出發次テ陛下御還幸

霞ヶ關離宮御車寄ニ御着御入館ナク閑院宮殿下御全伴直ケニ御門衛々兵ヲ点檢セラレ然ル後ケ御入館際

## 院宮殿下御退出

殿下、衛兵ヲ点檢セラル、一頗ル精密ニシテ九月十  
 二日御多忙中ナルニモ係ハラズ御門側衛兵控所  
 ニ赴カレ携帶武器ハ勿論被服靴下ニ至ル迄親  
 シク手ニ取ラレテ研究サレ事々物々利害ヲ大庭少  
 将ニ問ハセラル約三十分間ヲ費ヤサレタリ其際兵員  
 ノ食料ニ関シ殿下、肉食誤リ有サレ居ラル、モ近  
 時野菜食ヲ主張スル者獨逸ニ現レタル赴ニシテ  
 本邦ノ兵員ノ食料並ニ其結果ニ付テ大庭少将ノ  
 意見ヲ精シノ御聞取り遊サル

(花崎納)

0673

如國規則  
 敬礼三種  
 ニテ右リ来  
 儀、儀、甲  
 出儀、儀、乙  
 タレナリ



海軍

御退京ニ際レテハ既ニ皇族、儀礼ヲ辞サレ御微行トナリク  
 レトモ御歸艦ノ儀礼ハ服装ヲ革ニ通常服トセルノミニレ  
 テ他ハ統テ皇族、御資格ニ對スル儀礼行ハレタリ之レ獨  
 國ノ慣例トシテ斯ノ如キ場合御退艦ノ時ト全一儀礼ヲ執  
 行スヘキモノナル由ナリ依テ御退京ハ御微行ニシテ横濱  
 御着ト全時ニ再ヒ公式トナリタル事ナリ然レモ假令ハ地  
 ハ外國ノ領土ナルモ獨國皇族が自國軍艦ニ乗艦セラル、  
 儀礼ナルが故ニ當然彼ノ任意タルベキモノニシテ我が艦  
 隊ハ其儀礼ニ倣ヒ執行セラレタルナリ

御歸艦ノ際ハ午前七時四十分新橋発普通列車ノ後尾  
 ニ二等客車一台荷車一台ヲ連結セルノ之ヲ横濱駅ニ

(花崎納)

0674



テ切斷シテ繫船岸ニ運搬セシムルヲ鐵道院ニ交渉  
シ御荷物並ニ徒僕ヲ之ニ乗車セシメタルニ甚ク好結  
果ヲ得タリ宮内官ニ未ク此法ヲ実行シタルヲナキ旨  
言ヒ居リシモ今後斯ノ如キ場合ニハ此法ヲ取ルヲ可  
トスルモノト思考ス

御陪食及ヒ其他招待

九月十日

獨國大使晚餐服裝夜會服

招待者隨員一同接待員一同獨國艦隊司令長官  
各艦長及ヒ幕僚大使館員全部

九月十一日

官中ニ於テ午餐御陪食アリ英國ヲ除ク、外ハ  
單據各國御名代官特派大使隨員接待員駐日各  
國大公使及ヒ宮内官ヲ石サル服裝正服

九月十一日

午後十時ヨリ獨國大使館ニ催サレタル獨逸人  
會ニ御臨場接待員ハ一人モ供奉セズ

九月十二日

獨國大使館晚餐服裝夜會服

招待者日獨兩國ノ重ナル頭官接待員ハ井上御

用掛一名供奉ス

九月十三日

霞ヶ関離宮ニ於テ午餐ニ獨國艦隊司令長官参謀長及ヒ先任参謀ヲ召サル服装通常服

九月十五日

獨國大使館員ヲ霞ヶ関離宮ニ召サル服装礼服  
食後捧伴員一同ハ退場正料喫遠隨員大使館員

ト御對話アラセラル

九月十六日

宮中ニ於テ午餐ノ御陪食アリ御陪食人名別紙  
ノ通リ

九月十六日

霞ヶ関離宮ニ於テ晚餐九記ノ人ヲ召サル服装  
夜會服大増佩用セス

桂 公

齋藤 海軍大臣

渡邊 宮内大臣

元岡 海軍大將

伊集院 軍令部長

戸田 式部長官

杉村 駐獨大使

伊藤 式部次官

加藤 海軍少將

大島 陸軍少將

獨 國 大 使

海 軍

0678

海軍

獨國大使館參事官

獨國大使館附陸軍武官

同 海軍武官

隨員 伴 員

此會食ハ殿下御面識ノ諸官ト御懇談ノ御目的ニシテ非公  
式ノモノナリ

附記 今回ノ御滞京中ニハ公式ノ御宴會ハ御催ナキ

宮内省ノ御主意ニシテ霞ヶ関離宮ニハ食器其

他モ單ニ二十人前ニ對スル大ケノ用意アリシニ

止マル

(礼儀部)

0679

訪問答訪

海軍

九月十一日（御入京翌日）公式ヲ以テ我が皇室ヲ御訪問隨員  
拂伴員全部供奉正午御會食イラセラル服装正服

同日午後

天皇陛下霞ヶ関離宮ニ御答訪約二十分間御對話服装  
陛下御通常服ニシテ殿下以下離宮ニ奉迎ノ諸ハ一階  
上位ノ服装即ケ礼服ヲ着用ス

陛下御答訪ニ際シ殿下ノ御送迎ハ頗ル懇懃ナルモ  
ノニシテ御車寄下ニ出デスレ

陛下御馬車ノ御昇降ニハ殿下親シク手ヲ以テ御支  
ヘアリタリ

（花崎 録）

0680

殿下親レテ御往訪セラレタルハ尤ノ如シ

各皇族殿下、總理大臣、外務大臣、宮内大臣、侍從長、式部長官、駐日各國大使、先着ノ外國皇族及ビ特派大使

臣下ヲ御往訪ハ少レク奇異ノ感アレドモ諸外國ニ於ケル先例ナル由ナリ

英國大使マクドナルド氏ハ古キ御知リナル赴キニシテ九月十日御往訪ノ際、全大使館ニ於テ茶ヲ共ニセラレ度御希望ナリシモ午後四時以後大使不在ノ因答アリシヲ以テ全時刻前御往訪アリテ翌日重ネテ全大使館ニ赴カレ茶ヲ共ニセラル

殿下御使ヲ以テ御答訪サレタルハ尤ノ如シ

大勲位元帥、各國務大臣

殿下霞ヶ関離宮ニ於テ迎構セラレタルモ、尤、如シ

英西國皇族、佛米特派大使、英國艦隊員

英國皇族、コンノート殿下トハ御従弟、御間ナルモ今

田、御滞京中ニハ特別、御親交ハ行ハセラレズ其他

モ普通公式、御對話ニ留リレモ独リ英國艦隊司令長

官、ウヒンスロー中将ガ幕僚艦長ヲ率ヒテ訪問セル際

ハ時刻前ヨリ御車寄前、ハオールニ殿下御自身出迎

ヘテ来訪ヲ待タレ自カラ一室ニ案内サレ約三十分ニ

渉ル御對話中、<sup>リ以同</sup>随員、一人モ全室スルモノナク退出

ハ際ハ御自身御車寄迄送ラレタリ



隨員ノ訪問答訪ハ余ク殿下ト別ニレテ勝手ニ之ヲ行ヒ殿  
下ノ御生訪ニハ單ニ御附武官ノミ供奉ス

殿下ハ在來ノ御訪問帳ヲ本國ヨリ御携帶各訪問者ハ皇族  
以外總テ之ニ記名スルヲ我カ國ト公様ナリ又殿下生訪ニ  
ハ名刺ヲ用ヒサセラル其寶物ハ茲ニ貼付ノモノニレテ甚  
粗末ナル感イリ獨國ニテハ普通人民ハ大形ノ名刺ヲ使用  
スル慣例ニシテ隨員共ハ頗ル大形ノモノヲ使用シ居タリ

HEINRICH PRINZ VON PREUSSEN

附記 御訪問帳並ニ隨算ニ置キタル名紙ニシテ日本字  
 ノモノハ毎夜之ヲ翻譯小字ニテ傍記シ御覽ニ供  
 セリ又今回ハ此設備ヲ行ハカリシモ今後ハ各隨  
 算ノ氏名ヲ貼付セル名刺受盒ヲ隨算教役ノ之ヲ  
 御車寄ニ備フルニ必要ナリト思考ス

日獨相互勲章ノ比較

獨國ニ於テハ各聯邦勲章ヲ有シ其君主之ヲ授與スルノ  
 權アルガ故ニ其數頗ル多數アリテ全部ニ涉リ其位置ヲ  
 考究スル一難事ナルベク獨逸帝國<sup>皇</sup>トレテ皇帝<sup>皇</sup>外臣ニ  
 授與サルルモノハ普國<sup>王</sup>勲章中凡記表ニ記入ノモノミナ  
 リ普國勲章中ニモ右ノ外戰功章及ヒ「ホーヘンツォレン」王家  
 ニ對シ勲功アリシモノニ授與セラルベキモノ等アリ  
 頸飾章      頸飾章      *Schwarzer Adler-Orden mit der Kette.*  
 菊花大授章      黑鷲大授章      *Schwarzer Adler-Orden.*  
 桐花大授章      赤鷲大十字章      *Roter Adler-Orden, Ehrenkreuz.*

(花 崎 納)

0685

|                            |         |                                    |
|----------------------------|---------|------------------------------------|
| 勲一等旭日章                     | 赤鷲勲一等   | Roter Adler-Orden 1 Klasse.        |
| 勲二等旭日章                     | 同 勲二等ノ上 | II mit dem Stern                   |
| 勲三等旭日章                     | 同 勲三等ノ下 | II Klasse.                         |
| 勲四等旭日章                     | 同 勲三等   | III                                |
| 勲五等旭日章                     | 同 勲四等   | IV                                 |
| 勲一等瑞寶章                     | 王冠勲一等   | Königlicher Kronen-Orden I Klasse. |
| 勲二等瑞寶章                     | 王冠勲二等ノ上 | II Klasse mit dem Stern            |
| 勲三等瑞寶章                     | 王冠勲二等ノ下 | II Klasse                          |
| 勲四等瑞寶章                     | 王冠勲三等   | III                                |
| 勲五等瑞寶章                     | 王冠勲四等   | IV                                 |
| 右以下ハメダル及ヒ鷲章ヲ附レタル紀念物等アルモ純然ノ |         |                                    |

(花崎 勘)

0686

ル勲章ノ資格ヲ有スルモノニアラスシテ紀念章タルニ過キ  
ズ

赤鷲大十字章以上ノ勲章所持者ニレテ高位ノモノヲ授與  
スベキ場合其資格上之ヲ授與シ能ハサル場合ニハ金剛  
石入公階級ノモノヲ授與セラルル制アリ

赤鷲章ハ王冠章ノ上位ニアルコト我が旭日章が瑞寶章  
ノ上位ニアルが如シト虽モ彼我其性質ハ全然相異シテ  
赤鷲王冠兩勲章トモ其性質ニ於テハ公様ノモノニシテ  
兩者共ニ劍附極葉附又ハ珪瑯緑附章等ノ裝飾的記号  
ヲ附シテ其勲功ノ種類ヲ表スノ制ナリ

九月十日（御入京ノ當日）

（花崎綱）

0687

天皇陛下ニハ桂侍従長ヲ御使トシテ頸飾章ヲ贈進  
セラル此時我が宮内省ヨリノ要求ニヨリ服装正服

九月十一日(果二日)

殿下公式ヲ以テ御参内謁見ノ際獨逸皇帝陛下ヨリ御贈  
進ノ頸飾章ヲ親ク

陛下ニ奉呈セラハ其言上振(式部職ニテ調製ノ寫)ハ<sup>別紙</sup>如シ(別紙)

九月十二日御陪食ノ為メ殿下ニ供奉参内前老能ノ通り  
随員一同ニ我が勲章ヲ授與サル其法一室ニ一同ヲ會シ

井上樺伴員傳達ス服装<sup>通帯</sup>眼

勲一等桐花大授章

ゼッケンドルフ海軍中將

氏ハ豫備役ニシテ殿下ノ別當ノ職ニイリ殿下ニ奉

(花崎納)

0688

仕スルヲ既ニ三十余年殿下ノ海軍ニ於カセラル、  
御職務ニ附随シテ順次進級現位置ニ達シタル人  
ニシテ海軍将官ト云フヨリモ寧ロ宮内官タル人ナリ  
其席次ハベーン陸軍中将及ビクロジツク海軍中将ノ下  
位ニアリ先年殿下ニ供奉來聊ノ際勲一等旭日章ヲ  
授與サレ居レリ

勲一等旭日章

ベーン陸軍中将

氏ハ皇帝侍從武官ノ職ニアリ先任ノ中将ニシテ近  
々中ニ大將ニ進級ノ噂高キ由今回殿下御來邦  
ニ付特ニ勅命ニヨリ隨員ヲ命セラレシ人ニシテ其  
衆艦モ供奉艦ヲライフナヒニ定メラレ居レリ先ニ

(花崎 納)

0689

|                        |                       |                    |                   |                          |        |                       |                          |                    |                           |                         |
|------------------------|-----------------------|--------------------|-------------------|--------------------------|--------|-----------------------|--------------------------|--------------------|---------------------------|-------------------------|
| ワルデツセー元帥、參謀トシテ中伏當時來邦我が | 勲三等瑞寶章ヲ所持シ居リ獨國勲章ハ赤鷲勲一 | 等（我が勲一等旭日章ニ相當）ヲ有セリ | 勲四等旭日章<br>チスカ海軍大尉 | 氏ハ勲官ニシテ赤鷲勲四等（勲五等旭日章ニ相當）ノ | モノヲ所持ス | 勲四等旭日章<br>ベルフンゲル海軍大軍医 | 氏ハ赤鷲王冠勲四等（旭日瑞寶勲五等ニ相當）ノモノ | ヲ所持スルノミナラス我が勲四等ヲ有ス | 判任官以下ニハ勲六等瑞寶章以下ヲ授與セラル其法通常 | 服ニテゼツケンドルフ別當立合々井上接伴員傳達ス |
|------------------------|-----------------------|--------------------|-------------------|--------------------------|--------|-----------------------|--------------------------|--------------------|---------------------------|-------------------------|

（花崎綱）



九月十四日接伴員ハ獨國勲章ヲ贈呈セラル其法通常服  
ニテ殿下親シリ各自ハ授ケラル其際 (*Will you like to have*)  
ノ語ヲ用ヒラル

金剛石入赤鷲大十字章

井上宮内省御用掛

赤鷲大十字章ハ桐花大授章ニ相等スルモノニシテ  
氏ハ既ニ之ヲ所持セシモ其上級ヲ贈呈セラル、ノ  
資格ナキヲ以テ同勲章金剛石入ノモノヲ贈呈セラ  
レタルナリ

附記 獨國ニ於テハ勲章ニ用フル金剛石ハ必ず真  
物ナル由ニテ價格三千円乃至五千円ナル由依テ  
其所持者ハ便宜價造物ト入替ハ佩用スルヲ例ト

(花崎納)

0691

スト云フ

赤鷲勲一等(勲一等旭日章ニ相等)

八代中將

氏ハ赤鷲勲二等ノ下(旭日三等ニ相等)及ヒ勲二等瑞

寶章ヲ所持ス依テ直上ナレバ王冠勲一等(瑞寶一等)

ナルベキモ上級ヲ贈呈セラレタルナリ又赤鷲勲一

等ハバーン陸軍中將所持ノモノト全様ナリ

赤鷲勲二等ノ上(勲二等旭日章ニ相等)

大庭少將

氏ハ王冠勲二等ノ下(瑞寶三等ニ相等)及ヒ旭日勲三

等章ヲ所持ス依テ直上ナレバ王冠勲二等ノ上(瑞寶

二等ニ相等)ナルベキモ上級ヲ贈呈セラレタルナリ

又赤鷲勲二等ノ上ハ駐日獨國大使バックス伯ノ所持

(花崎 傳)

0692

し居ルモノト全様ニシテクロジツク中將ノ所持スル  
モノヨリモ高級ナリ

王冠勲三等ノ下（瑞寶勲三等ニ相等） 蜂須賀式部官

氏ハ四等官ニシテ無勲ナリ

同 右

古谷外務書記官

氏ハ高等官四等ニシテ勲五等瑞寶章ヲ所持し居ル  
ヲ以テ勲四等相等ヲ以テ直上トナスモ一級上級ヲ  
贈呈セラレタルナリ

王冠勲三等（我が瑞寶四等ニ相等）

上村大尉

小官ハ公然同伴算タルノ資格ヲ有セズ依テ小官ニ  
對スル勲章ノ御用意モナク從テ勲章贈呈ノコト

（花崎納）

ナキ筈ナルニ特ニ殿下ヨリ電奏サレ折返レ贈呈  
ノ電報アリシ由ナルガ故小官ノ勲五等瑞寶章所  
有ニ對シテハ直上ノ叙勲ニ過ギザレ氏之レトテ  
モ時宜ノ特旨ニ依リタルヲ明ナリ

接伴員一同ハ御親筆入ノ写真ヲ下賜サル皆額縁附ノモ  
ノナリ

我が判任官以下ニ對スルモノハ獨國ニハ右等ニ相等スル  
勲章ノ規定ナキ由ニシテ勲章ニ代フルニ金製鷲ニ寶石ヲ  
入レタル手釦或ハ襟ピンヲ紀念トシテ下賜セラル特ニ  
御滞在中御用ヲ勤メタル自動車運転手ニハ御手ズカラ  
紀念品ヲ下賜セラル

(北 崎 然)

0694

其他傭員一同へ一千五百圓下賜サル同離宮ニテノ使用人  
員七十名ナリシヲ以テ人頭割ニ十一圓トナル

九月十七日獨逸皇族殿下御退京當日獨逸艦隊員ニ尤ノ  
通り勲章ヲ贈呈サレ井上御用掛獨逸艦上ニ於テ傳達ス

勲一等旭日大授章

司令長官クロジツク中將

勲三等旭日章

參謀長チースメイヤー中將

全 右

「シヤルンホルスト」艦長レーシング大佐

全 右

「ライプツヒ」艦長ベツケ大佐

附記 クロジツク中將ハ王冠勲二等ノ上（瑞寶二等ニ相等）

ヲ所持シ他三大佐ハ王冠勲三等（瑞寶四等ニ相

等）ヲ所持シ居レリ

参考ノ為メ過去獨國皇帝ヨリ我が海軍武官ニ勲章贈呈  
セラレタル重ナル例ヲ揚クレハ次ノ如シ

三十七八年戰役後尤ノ通リ贈呈サル

赤鷲大十字章(桐花大授章ニ相等)

伊東軍令部長

公 右

山本大臣

赤鷲勲一等(旭日勲一等ニ相等)

伊集院軍令部長

公 右

齋藤次官

劍附王冠勲一等(瑞寶勲一等ニ相等)

上村第二艦隊司令長官

但シ劍附ハ武勲アルモノニ限ル劍ニレテ第二艦隊ガ獨逸皇族カ

ールアントン殿下御渡清ノ際護衛ノ任ニイリレニ依ル全殿下御戰中

陸軍同伴員モ亦總テ劍附勲章ヲ贈呈セラレシト云フ

(花崎 樹)

明治四十年遣米艦隊獨國訪問ノ際贈呈セラレタルモノ尤ノ如シ

赤鷲勲二等ノ下(旭日三等ニ相等)

竹内統波艦長

全右

山屋千歳艦長

全右

八代大使館附武官

王冠勲二等ノ下(瑞寶三等ニ相等)

竹下參謀長心得

赤鷲勲四等(旭日勲五等ニ相等)

西艦衛兵司令

其他撃劍柔道試合ノ勝利者ニ贈呈サル大尉王冠勲三等(瑞

寶四等ニ相等)中少尉王冠勲四等(瑞寶五等ニ相等)

伊集院司令長官ハ既ニ赤鷲勲一等(旭日一等ニ相等)ヲ所持セラレ

タルヲ以テ御親筆入御寫真ヲ下賜サル

青山大葬場殿内ニ於ケル各國艦隊員

獨國艦隊參列員官職氏名及通リ

司令長官海軍中將ヲオンクロジツク

參謀長海軍大佐チースメイヤー

「シヤルンホルスト」艦長海軍大佐レーシング

「ライプツヒ」艦長海軍大佐ベシケ

參謀海軍中尉ベツカー

九月十三日午後七時三十分小官自動車二輛ヲ以テ大使館

ニ出迎ハ公衆大葬場殿ニ至ル

外國艦隊員席ハ最高位ノ一群預備ノ意味ヲ以テ空席ト

(花崎場)

0698



シテ存シアリテ他ハ艦隊員並ニ外交團混同既ニ畧ボ満  
 員ノ有様ナリシヲ以テ式部官ノ許可ヲ得テ其最高位ニ  
 着席セシメタルニ頗ル満足ノ意ヲ表セリ着席スルヤ數  
 分後レテ英國艦隊員入場ス國別ヲ以テ一團トセバ獨  
 艦隊員ノ背後ニ着席セザルノ止ムヲ得ザルニ至レリ依  
 テクロジック中將ハ獨艦長ヲ立タレシ席ヲウンスロー中  
 將ニ與フ是ニ於テ英獨兩艦隊員ハ交互ニ着席頗ル好都  
 合ナルヲ得タリ

佛國司令官以下艦隊員ハ其大使館員ト一團トナリテ英  
 獨兩艦隊員トハ全ク行動ヲ共ニセザリキ  
 米蘭兩艦長ニ就テハ特筆スベキ事項ヲ認メザリキ

(花崎納)

0699

埃比國艦長ハ大使ト全列入場セシニハアラザリシモ藥場殿  
 内ニ於テハ大使ノ隨員トシテ着席セリ  
 一般外交團中ニハ藥場殿内儀礼御執中ナルニモ係ハラズ  
 或ハ席ヲ離シ或ハ談話スル者アルノミナラズ甚シキハ用  
 意携帶セル飲食物ヲ飲食スルノ不謹慎者アリ殊ニ英國  
 大使館員中ニモ等ノモノ多カリシハ順テ礼ヲ欠クヤノ  
 憾アリキ各國艦隊員ノ態度ハ流石ニ一國ノ軍隊代表者  
 夫ケアリテ外交團ニ比シテ著シク嚴格ニシテ謹慎ノ意ヲ  
 表シ居タルヲ認ム